

第1回 自然エネルギー学校 in 小諸エコビレッジ

開催場所：小諸エコビレッジ（小諸市甲北竹原4 7 1 7 番地）

主催：特定非営利活動法人太陽光発電所ネットワーク

<1日目>

10月15日、正午より長野県小諸エコビレッジにおいて自然エネルギー学校を開催しました。15日、16日の二日間にわたり延べ24名の方にご参加いただき、自然エネルギー活用の先進事例を学んだり太陽光パネルを使用するワークショップ、これからのエコビレッジについて話し合いました。



まずは現地で活動中のPV-Net 会員でもある岡本一道氏が参加者の皆さんにエコビレッジ内の案内をしてくださいました。右の写真のティピ（テント風建物）は先日まで人が住んでいて太陽光パネルを繋いで屋内で電気が使えるようになっていました。

木々に囲まれた山の中には、かつて港区の高原学校だった頃のキャンプ場の調理場跡に石窯のオーブンを設置しピザを焼くこともあります。後方の木や土で出来た建物には今後オーガニックコットンを販売するお店が入る予定です。



敷地内の池には水が湧き出していて常にたっぷりの水が溜まっていました。エコビレッジ内には畑もあり、10月になっても何種類もの野菜が育てられていました。敷地内の体育館で毎月第3土曜日に、BIO マルシェが開催されており地元の新鮮な野菜やパン、手作りの商品などが並びます。

小諸エコビレッジの様子を見て回ったあとは、現在自然エネルギーを活用した活動を行っている方々を招いての座学です。

まずは岩手県にある「森と風のがっこう」の代表 吉成信夫氏のお話を聞きました。



吉成氏は 01 年に葛巻町の協力を得て廃校を再利用し森と風のがっこうを開校。森と風のがっこうでは「自然エネルギー」と「農的生活」をテーマに持続可能な地域づくりを実践しています。

森とかぜのがっこう HP
<http://www5d.biglobe.ne.jp/~morikaze/>

森と風のがっこうのある葛巻町は標高 700 メートルの山懐にあります。ここは酪農と林業の町で 86%が森林です。足元にある資源を活かし循環型の生活を体験できる場として現在では多くの人々が足を運んでいます。あそびを通して自分たちで使うエネルギーを作り出し食物を育て地域との繋がりを大切にすることで現代の生活が失った豊かなものが見えてくるという吉成氏。大変貴重なお話を聞くことができました。

座学 2 コマ目は千葉県南房総市のガンコ山代表 平賀義規氏のお話です。

1998 年、人と森林の共生を目指し放置森林を再生して建設された日本で最初のツリーハウスヴィレッジを運営する平賀氏。

ガンコ山にはツリーハウス造り体験など自然体験プログラムに外国人を含めて年間 2900 人が参加しています。

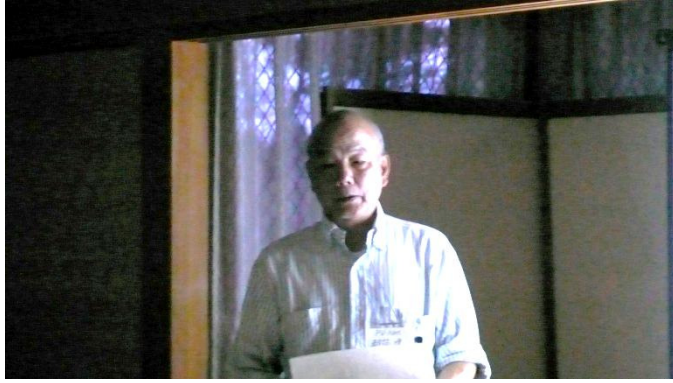
ガンコ山 HP
<http://www.dd.ijj4u.or.jp/~ganko/>



ガンコ山は太陽光発電風力発電 100%自然エネルギーで自給、沢水を利用し独立専用水源、料理を作る燃料はすべて薪で露天風呂の熱源はバイオディーゼル利用など「今、そこにある資源の最大活用」をコンセプトに完全資源循環型基地になっています。

自立・共生・循環再生という森の持続性の維持は人間とのよい協力関係から生まれるそうです。人の営みと生命のバランスの取れている森が里山であるということ、人と森林は生命共同体だということ、人間と自然との関係性などとても勉強になりました。

続いて座学 3 コマ目は PV-Net 事務局長 都筑による「小諸エコビレッジのグランドデザインをつくろう」



今回、この小諸エコビレッジにどのような自然エネルギーを使い、活用しエコビレッジとして機能させていくのか、参加者の皆さまと協議するにあたり、エコビレッジの歴史や概要あり方などを説明しました。

イギリスやデンマークなど海外で成功しているエコビレッジの紹介や、日本のエコビレッジについて解説。そして小諸エコビレッジの基本理念や置かれている条件を念頭に今後のエコビレッジ構想を練っていくこと説明し、次の「ディスカッション① グランドデザインについて話そう！」に移りました。

ディスカッション① グランドデザインについて話そう！

このディスカッションでは日本のエコビレッジの海外での立ち位置とエコビレッジ協会との関連についての質疑応答がありました。

海外では木の花ファミリーなどが有名ですが、小諸では独自の理念に基づいたエコビレッジを展開していくという意見などがありました。エコビレッジ協会との関連については今後検討していくという説明がありました。

さらにグランドデザインの作り方についても話し合いがもたれました。

<2日目>

「具体的な構想を練ろう！」

岡本一道氏より小諸エコビレッジが現在置かれている状況とこれから建設するゲル
の事、これから進んでいく方向など究極のエコビレッジを追及していくという熱心なお話を聞いた後で座学4コマ目へ。



ここでは、参加者が2つのグループに分かれ「エコビレッジグランドデザイン～私が住みたいエコビレッジ～」に関してディスカッションを行いました。

テーマ決めから、基本となる考え方や具体的な自然エネルギー設置まで自分の思い描くエコビレッジの意見を出し合い、地図に書き込んでいきました。



またグラウンドに出来る予定の8メートルの大きさのゲルの用途、移動手段、導入すべき自然エネルギー施設やその設置方法、アイデアを地図に落とし込んでいきます。

その後、各グループの代表者がグループ内で出し合ったグラウンドデザインを発表。

エネルギーの問題から資金の問題まで考えることはたくさんありました。まとめるのは大変ですが人の意見を知ることは面白かったです。



人と意見を交換することで、自分ひとりでは考え付かないようなアイデアや問題が見えてきます。まだ構想としても初期段階ですが小諸エコビレッジには沢山の可能性があり、これからどんな風に広がっていくのかとても楽しみです。



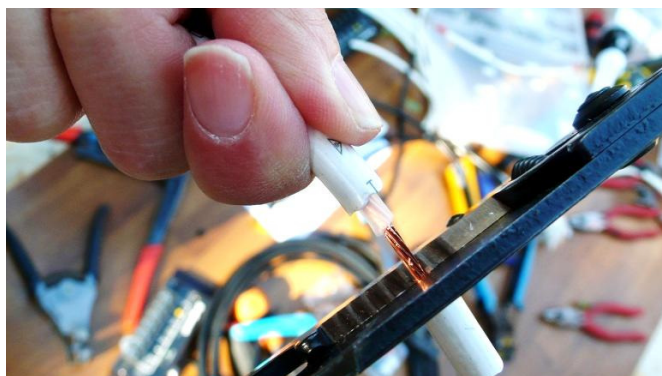
午後のワークショップの前に小諸エコビレッジ内に住んでいる小宅氏がおいしいお昼ご飯を振舞ってくださいました。天気が良かったので参加者の皆さんとテーブルを外に運んで緑の中での昼食になりました。

お昼ご飯は信州サーモンを使った押しずしとベジタリアンの参加者もいらっしやっただのでどんこで取ったダシを使ったお味噌汁。地元の素材を使ったお食事は本当に美味しく皆さん大満足でした。



美味しいお昼をいただいた後は、自然エネルギーワークショップ「独立系太陽光発電電池を作ってみよう！」です。

講師は PV-Net 中部の三浦悦夫氏です。



一枚の PV パネルからの太陽光発電の利用を学んでいきます。

まずはケーブル線を切つてむいたり、部品を圧着して配線時に使えるように準備をしていきます。道具も使い慣れていないと、間違つて線を切つてしまつたりとなかなか大変でした。防水の加工まで施して準備完了です。

今回独立型 PV と八島式を体験しました。八島式は PV パネルに太陽光が当たっている間は太陽光発電を利用し曇つて電気が取れなくなると普通の電気に切り替わるという仕組みです。右の写真では独立系で電気を起こし電球が点いています。



配線の前の段階からの作業ができれば震災などが起きた時にも、材料さえあれば電気を起こすことが出来ます。太陽光パネル一枚がいざと言うときとても役に立つのだと感じました。

ここまでで第 1 回自然エネルギー学校のプログラムは終了です。

座学とディスカッション、ワークショップが組み込まれ 2 日間で多くのことを学びました。

そして参加していただいた方々とお話をして、つながりが出来たことも素晴らしいことだと思います。

(PV-Net 事務局 高田花子)